

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬学専攻

博士課程 1 年次生

中山 結月

1. はじめに

この度、国際交流基金による助成金の援助を受け、2024 年 12 月 1 日から 4 日間にわたりオーストラリア（シドニー）において開催された The 9th Asian Particle Technology Symposium (APT2024) へ参加し、自身の研究成果を発表したので報告する。

2. 学会について

The 9th Asian Particle Technology Symposium (APT2024) は「持続可能な未来のエンジニアリング」をテーマに掲げ、次世代の持続可能な未来に貢献する最先端の工学的進歩に焦点を当てている。本学会は、粒子技術研究のパラダイムシフトを促進することを目的としている。第 9 回目となる今回は、シドニー市内の Amora Hotel Jamison Sydney で開催された。学会には薬学のみならず、粉体技術を扱う様々な分野の研究者が世界中から集まり、それぞれ研究内容について活発な議論が交わされた。

3. 学会の様子

発表は特別講演、口頭発表、ポスター発表に分かれており、私は “Design of spray-dried supraparticles containing carvedilol using amyloid nanofibrils as binder modifiers for controlled morphology” というテーマでポスター発表を行った。初めての英語での発表であったため、質疑応答でうまく答えられない場面もあったが、ジェスチャーや知っている簡単な英単語を使って、できる限り自分の説明したいことを伝えようと努力した。しかし、それでも十分に伝えきれない部分も多く、英語でのコミュニケーション能力を高める重要性を再認識した。また、日本をはじめ、中国や韓国、オーストラリア、ニュージーランドなど、様々な国の研究者と各自のテーマについて意見交換を行った。他大学の研究者がどのような研究に取り組んでいるのか、さらに私自身が興味を持った内容について質問や議論を深めることができた。



学会会場にて

この経験は非常に貴重であり、自分の視野を広げ、研究への理解を深めるとても有意義な時間となった。



ポスター発表の様子

4. オーストラリアについて

オーストラリア滞在期間中の空き時間を利用してシドニーの街を散策した。世界遺産にも登録されているシドニー・オペラハウスを訪れたのはとても貴重な体験であった。シドニーの街にはヨーロッパを思わせる石造りの建物が多く点在し、自然豊かな公園や美しい港が多く存在した。飲食店では屋外の屋根付きスペースで、昼間から食事を楽しんでいる人々の姿が多く見られた。また、学会が12月に開催されたこともあり、街全体がクリスマスモードに包まれていた。冬のクリスマスしか知らなかった私は、夏のクリスマスという状況に違和感を覚えた。オペラハウスの周辺は観光客で賑わい、前の階段では有名歌手のライブが開催されるなど、活気にあふれていた。一方で、訪れた時期が物価高と円安の影響により、コンビニで水を買おうとした際には1本450円という驚きの価格に直面した。ここで初めてニュースでよく取り上げられている日本の経済状況を身をもって実感した。



シドニー市内



シドニー・オペラハウス

5. 終わりに

この度、国際交流基金の助成により、The 9th Asian Particle Technology Symposium (APT2024)に参加し、自身の研究に関する知識を深めるとともに、国際学会で発表するという貴重な経験を得ることができた。今回の発表を通じて、英語で自身の研究内容について説明することの難しさを改めて実感した。単語レベルの英語やジェスチャーである程度の内容を伝えることはできたものの、自分の考えを完全に伝えるには至らず、語学向上の必要性を強く感じた。また、日本とは異なる文化に触れることで、日本とオーストラリアそれぞれの文化の良さを感じることができた。様々な分野の研究を知ることができる機会にも恵まれ、大変貴重な経験を積むことができた。この経験を糧に、研究活動だけでなく、語学学習にも一層励んでいきたい。

最後に、このような機会を与えてくださった、戸塚裕一教授およびご支援いただいた多くの方々に、心からの感謝の意を表し、報告とさせていただきます。